

邦楽 ジャーナル

Hōgaku Jorunal

8

2015 Vol.343

【特集1】
地歌三味線の響き（前編）

【特集2】
聴き比べる 新福山箒、ネオ箒、二つ折れ箒

【エンジョイスコア】
「いい日旅立ち」 尺八・箒・十七絃三重奏

衝撃

砂崎知子氏、宮城会を退会
三味線の大皮、輸入ストップ！

【いんたひゅう】
邦楽四重奏団

（平田紀子、黒田鈴尊、中島裕康、寺井結子）



聴き比べる

弊社では9月12日に紀尾井ホールで3種の地歌三味線を紹介する会を催す。聴き比べることでそれらの特徴がより鮮明になる。先ほど行われた2つの聴き比べの会をここに紹介する。(田中隆文)



①現代の箏を解説する(東京藝大にて)

新福山箏、ネオ箏、二つ折れ箏

6月12日、東京藝術大学で近年開発された箏の聴き比べを行った。これは米国コロンビア大学の要請を受け、弊社がコーディネートしたもの。「移動に便利な箏はないのか、自分で糸締めが出来る箏はないのか」というシンプル

かつ切実な要望だった。確かに普通の箏はその大きさのせいで飛行機に載せるのに大変な思いをする時がある。十七絃はなおさらだ。また、米国に和楽器店があるわけでもない。糸の張り替えは切実な問題だ。2つの問題を解決し、しかも音色を損なわない箏を3種選んだ。新福山箏、ネオ箏、二つ折れ箏だ。

当日参加したのは、コロンビア大学で邦楽の授業を推し進めるバー・バラ・ルーシュ中世日本研究所所長ほか、同大のコンピューター音楽センター所長、サウンド・アート・プログラム主任、学生達6人で、こういうチャンスは滅多にないと、日本側からも海外を視野に活動する演奏家、作曲家、東芝国際交流財団(後援)担当者、藝大の深海さんと准教授と学生達十数人が集まつた。

新福山箏

新福山箏を説明したのは米川門下の吉田敏乃(写真①)。新福山箏は福山邦楽器製造業協同組合が研究家の徳丸吉彦氏、演奏家の米川敏子ほかの力を借りて開発した。140センチ、4・5キロ。7万5000円(税別)。乗用車の座席に横置き出来る大きさだ。

2002年からの中学校における和楽器必修。そこに柱を立てて五LDで平調子に調絃した

が開発のきっかけとなつた。伝統工芸品としての品格を保ちながらも中学生でも扱いやすい楽器というコンセプト。糸巻きのネジで糸切れしないよう特別仕様になつてているところがミソだ(写真②)。

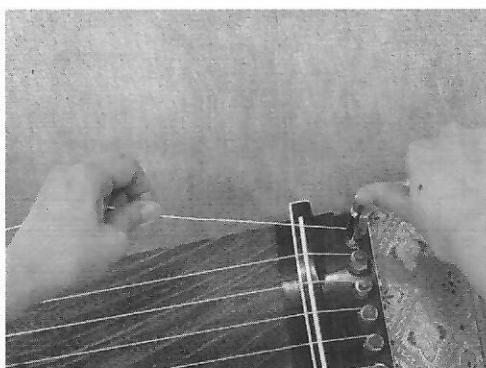
ネオ箏

ネオ箏は横浜の箏奏者進藤真千子が説明する。金沢の箏奏者麻井紅仁子が開発したところで、120センチ、3・8キロ。8万円(税別)。やはり糸巻き部分に大きな特徴がある。口前に取り付けるペグ式の糸巻きユニットは実用新案だ(写真③)。ペグは専用の器具で14回まわすと1回転する。微調整がしやすい。

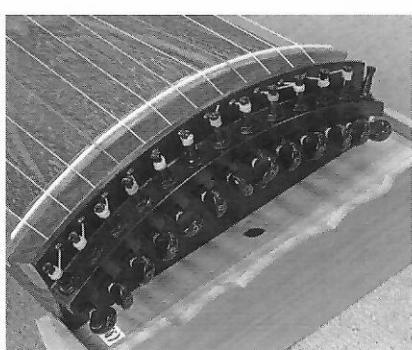
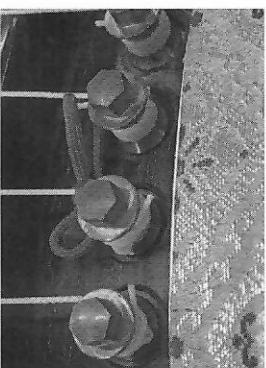
甲には箏柱ボイントマークが埋め込まれている。

二つ折れ箏

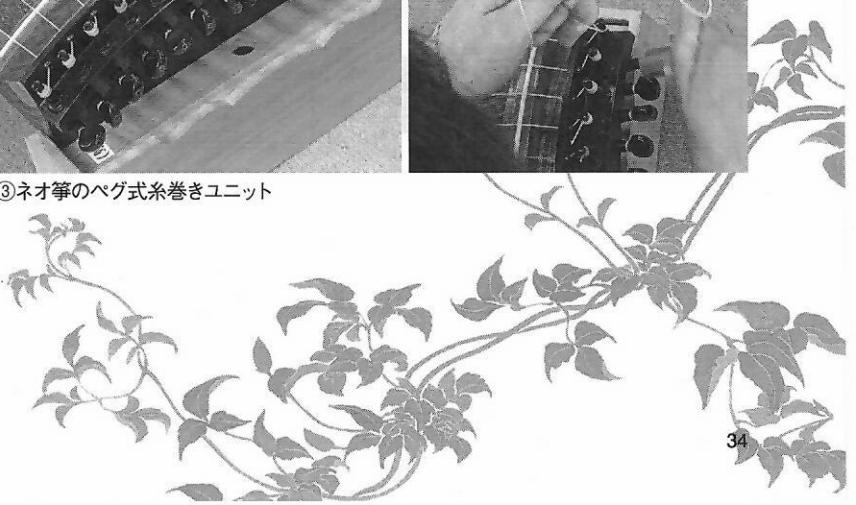
二つ折れ箏「Kit-O-Koto」はおことの店谷

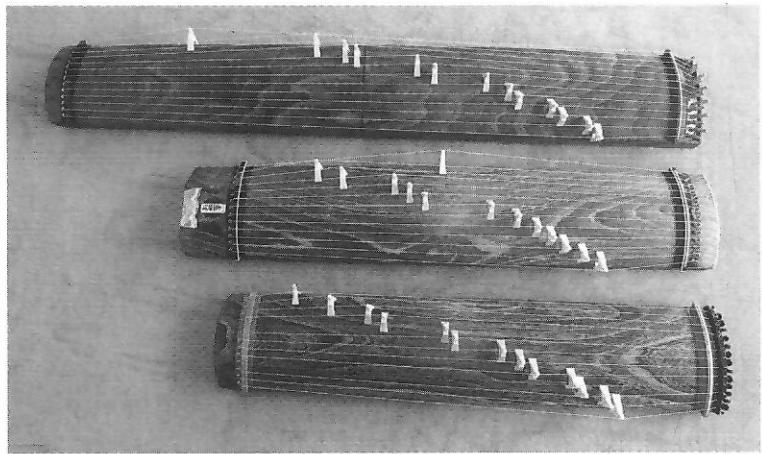


②新福山箏の糸巻き部分



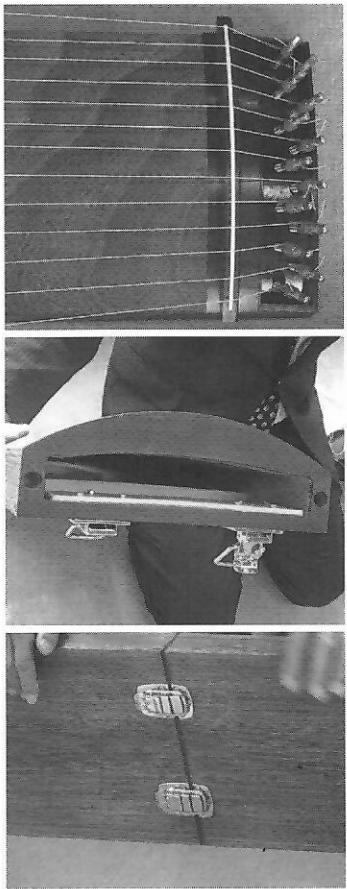
③ネオ箏のペグ式糸巻きユニット





(5)(上から)二つ折れ箏、新福山箏、ネオ箏

川の谷川和弘氏が説明する。フランスで活躍するみやざきみえこの「普通の箏の長さで」という要望を受けた谷川氏が小森琴製作所と組んで開発した。二つ折れにすると長さは90センチになる。普通の箏を分断してつなぎ目に凹凸を設け、裏板にフックを付けたシンプルな



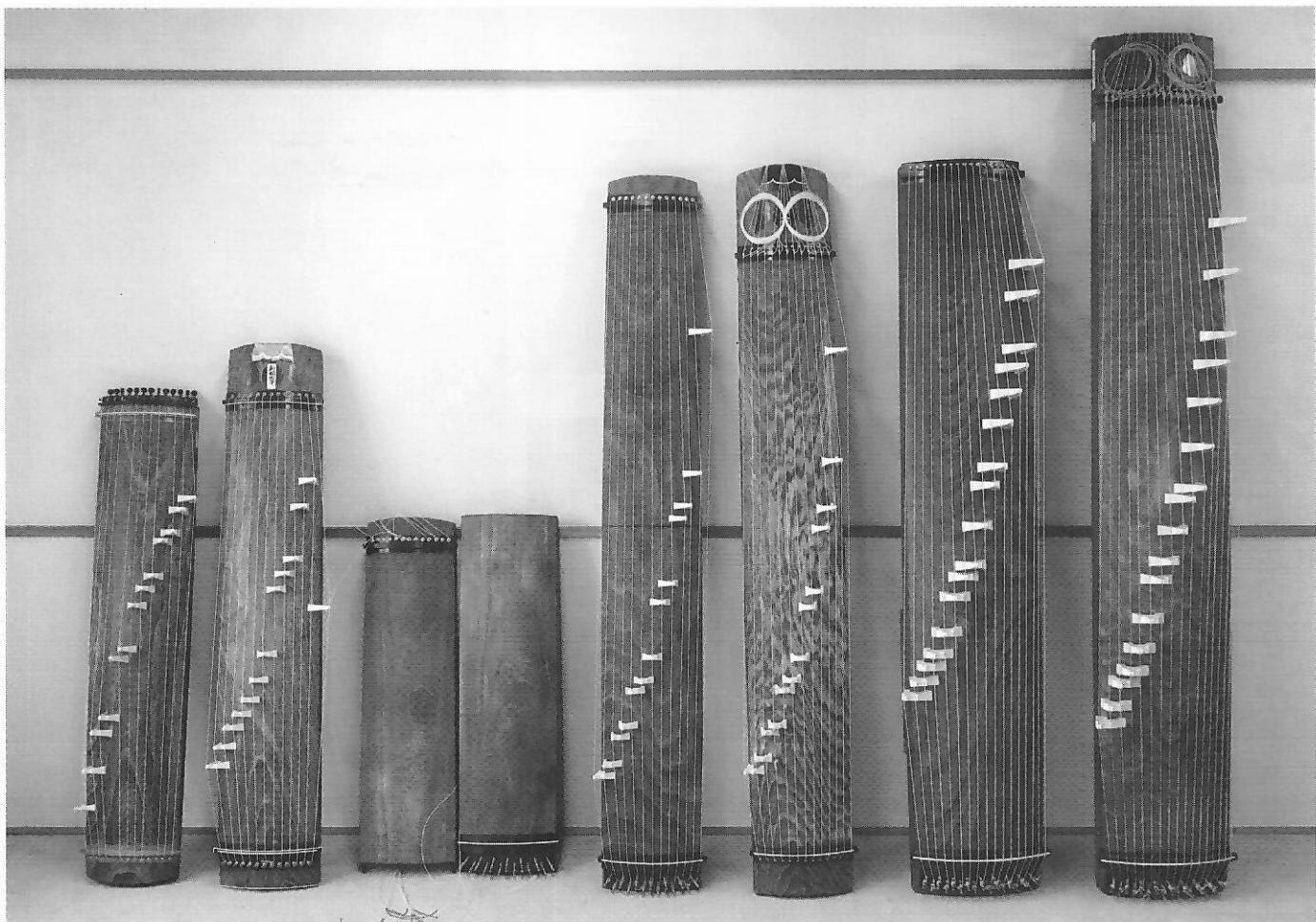
(4)二つ折れ箏の糸巻き部分と断面、裏板接合部

構造だ(写真④)。桐材は柔らかいのでつなぎ目を紅木で補強した。絃を張るとその張力で完全に密着する。みやざきの要望で柏葉をなくし、絃長を15センチ長くした。これによつて響きが膨らんだ。低音に余裕があるので、例えば「春の海」の一=日をハンドルなしで取ることも出来る。9本の強さでしめても大丈夫だ。柱が切り目の直上にきてひつかかることはない。そこは職人技。問題は組立と分解だ。これを愛用しているみやざきは組立に20分というが、30分はみておいたほうが良さそう。

「絃を落ち着かせるために現地入りしたらすぐに組立てて柱を並べ、ひたすら絃を押します。柏葉がない分共鳴胴が大きくなるせいか、音もかなり大きく、オケとのコンチエルトなどでも使っています。これがなかつたら今頃体を壊していたかもしません」とみやざき。価格は26万円くらいからと谷川氏。

六尺十七絃

谷川氏はもうひとつ、六尺十七絃を披露した。十七絃は210センチが標準だ。これを普通の箏と同じ長さにした(写真⑥の右から2番目)。二つ折れ、三つ折れも試してみたが、太くてどこまでも強く張れるテトロン糸の張力に対する耐久性に不安を感じ、断念した。小さくした分、音の響きを確保するため



(6)(左から)ネオ箏、新福山箏、二つ折れ箏(分解)、二つ折れ箏(組立)、従来の箏、六尺十七絃、従来の十七絃

に磯の高さを少し上げ、裏の音穴を中心にも小さく設けた。まだ、試作段階という。

3人の説明のあと、平田紀子が『六段の調』初段、『手事』第3楽章で弾き比べた(写真⑦)。まず、基本となるテトロン糸を張った普通の箏を、そして新福山箏、ネオ箏、二つ折れ箏の順に弾く。同じ人が同じタッチで同じ曲を弾くことが大事だ。新福山箏は柔らかな良い音色がする。ネオ箏は思いのほか響く。二つ折れ箏は音に深みがあり低音が響いた。どの楽器も音色的に違和感はないというが、参加者の大方の意見だった。

伝統楽器といえど、常にその時々の要望にそつて変化し、今日に至っている。披露された3種の箏はまさに現代を表している。みやざきは言う。「チェックインカウンターで、係員によって、オーバーサイズチャージを取られたり見逃してくれたりするんですが、ドキドキしながら列で待つのも心臓とお肌によくなっています(笑)。オーバーサイズチャージ、片道だけでも高いですよ! 遠くに行けば行くほど、一度、主催者に支払いを拒否されたことがあります。なかなか納得してくれなくて、これもストレスでした!」

新絹糸とテトロン糸

新絹糸のことは本誌今年4月号特集で紹介した。5月27日(水)、文京シビックセンター会議室で、その新絹糸の音色を従来のテトロン糸と聴き比べる講演会が行われた。主催したのは東京和楽器製造卸組合で、組合員のための会だ(写真⑧)。

徳丸吉彦氏率いる国産絹糸弦普及の会では

は切れにくい絹糸を開発し、音色の味わいを

取り戻そうと運動しているが、普及するには

まず楽器商に糸締めをしてもらわなければな

らないと、昨年、楽器商(小売店)を対象にした新絹糸締めの実技講習会を行った。今回、同じ楽器商でも製造・卸の集まりが、その音を確認したいと、聴き比べが実現したものだ。

丸三ハシモトの橋本英宗社長が絹糸の出来までと新絹糸の特徴を説明したあと、開発に携わった米川敏子がテトロン糸の箏と新絹糸の箏を『六段の調』で弾き比べた。同じ楽器ではないので正確に比べるということにはならないが、共に新糸を仕上がり6本弱で締めたものを弾いた。比べると違いがよく分かる。絹のほうがふくよかで、音の余韻が深い。特に低音がよく鳴っていた。

米川は言う。「古典が出来たときは絹糸だったわけで、古典はそれに合う曲だと思います。絹糸は音の重なりが気持ち良いです。押し手もしやすく体にも良いです。少し粘りというか摩擦があるので、手の速い現代邦楽には不向きでしょう。また、それはテトロンのほうがすつきり聞こえます。新しい絹糸は従来の絹糸と比べて強さを感じますが、弾力のある強さで、テトロンは弾力のない強さと言えるでしょう」

製造・卸業者は最後に自分で両方の箏に触り、その感覚を確かめていた。

カンガルー皮と四ツ皮、犬皮、合成皮

三味線の皮が国内に入らなくなっているが、それを見越していたかのように東京邦楽器工業協同組合ではおよそ20年前からカンガルーの皮を三味線の皮として研究、開発してきた。組合では年に1回、江戸東京博物館ホールで「東京三味線・東京琴展示製作実演会」を行っているが、そのプログラムの中で必ずカンガルー皮三味線を犬皮との弾き比べで披露している(写真⑨)。「音色も彈き心地も大

皮とそれほどの差はない」と弾き比べをした演奏家は言っている。まだ試作の段階というが、出番は近いかもしれない。

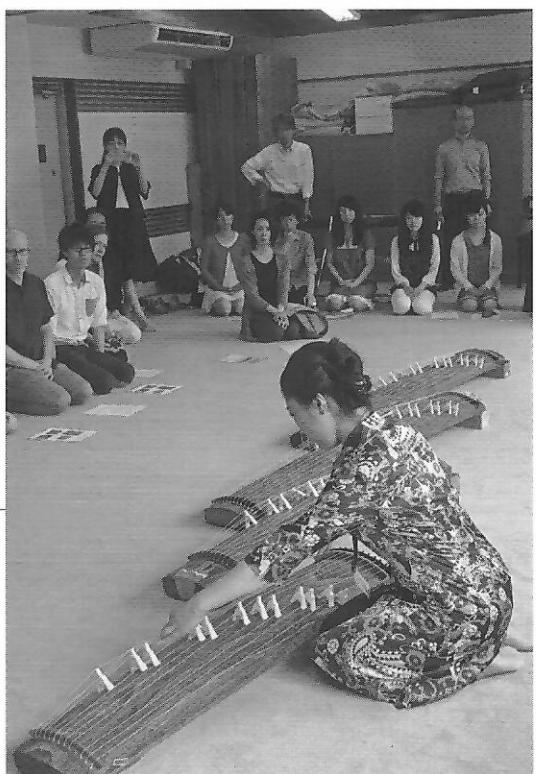
(日) 13時から行われる。楽器の製作実演から始まり、弾き比べ、大学サークルの演奏、来



⑧東京和楽器製造卸組合で新絹糸とテトロン糸を弾き比べる



⑨カンガルー皮と犬皮を弾き比べる(昨年の展示製作実演会)



⑦普通の箏と3種の現代箏を弾き比べる

今年の第21回展示製作実演会は8月2日(日)13時から行われる。楽器の製作実演から始まり、弾き比べ、大学サークルの演奏、来場者の筝・三味線体験というプログラムで、入場無料だ。今回の「弾き比べ」は従来よりも時間をかけ、四ツ、犬、合成、カンガルーの4種を比べる予定という。演奏するのは桃響(Futari)(=澤田響紀・岩田桃楠)。14時40分頃の演目だ。